

アメリカンフットボールの北海道学生選手権は8日、北海学園大清田グラウンドほかで第2節の4試合を行い、甲子園ボウルにつながる1部リーグは北海道大が帯広畜産大を40-3で下し、北海学園大も北星学園大を26-22で退け、それぞれ2連勝とした。

北海道大は3点を追う第1Q、DB天内太生（4年、大麻高）の95ヤードのキックオフリターンTDで逆転すると、第2Q以降もRB中牟田晃基（3年、埼玉・浦和高）のTDラン、DB天内の2本目のキックオフリターンTDなどで加点し、快勝した。帯広畜産大は立ち上がりにはK樋田亘哉（3年、帯広大谷高）のFGで先制したが、その後は北海道大守備に封じられた。

北海道大の村井公寿監督は「キックオフリターンに助けられた。課題はオフェンス。1年生QBが試合に慣れてくると、もっと楽に決められるはず」と大勝にも気を引き締めた。大活躍の天内はパス守備でもインターセプトを決めるなど絶好調。「リターンTDはリーグ戦で初めて、味方のブロックのおかげで真っ直ぐに走るだけだった」と快走を支えた仲間に感謝していた。

北海学園大は第4Q残り26秒で、QB佐和田健悟（4年、名寄高）がエンドゾーン奥に駆け込んだWR佐藤玲太（2年、札幌光星高）へ逆転のTDパスを鮮やかに決め、辛くも2勝目を挙げた。昨季の大敗の雪辱を期した北星学園大はWR村屋隆侑（4年、北星学園大付高）のTDレシーブなどで再三リードを奪ったが土壇場で金星を逃した。

北海学園大の斎藤一将監督は「ぎりぎりの試合になったが、勝てたことでパスオフェンスの底力を見せたいと考えたい」と前向きに振り返った。殊勲のパスを投じたQB佐和田は「逆転につながった最後のシリーズは人生で一番緊張した1分間だった。レシーバーを信じて投げた」と勝利の味をかみしめたい。

第4節は15日、札幌市円山陸上競技場で1部の北海学園大-札幌大（午前10時）と札幌学院大-帯広畜産大（午後1時）、北海道医療大グラウンドで2部の東京農業大-釧路公立大（午前10時）を行う。